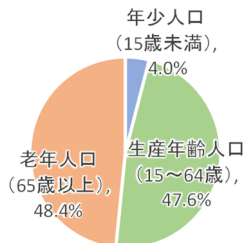


岸田 (きしだ)

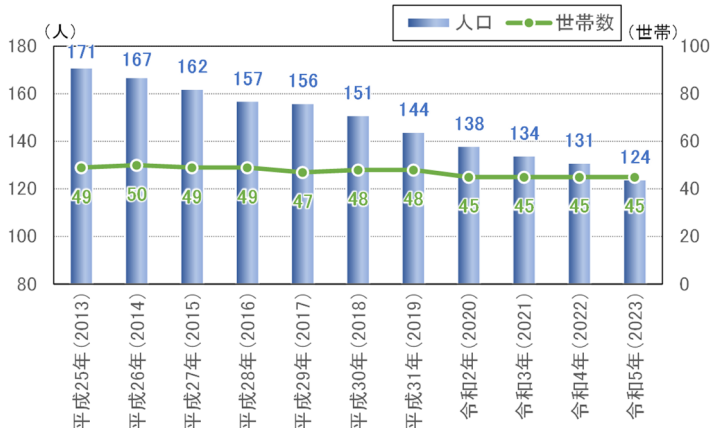
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	124人
世帯数	45世帯
高齢化率	48.4%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の東西に山が迫る農山村である。東側を岸田川が北西に流れ、川と並行する県道若桜温泉線が集落の北側で大きく折れて中辻・丹土方面に向かう。また、岸田川右岸を岸田～千原間の基幹農道が走る。

地名由来 近世に本郷といわれた当地が川の両岸に所在したことによると思われる。

歴史等 永正11年(1514)の『段銭帳』には既に「きし」「はたわら」「たなか」「あうげ」の村名が記されている。天禄(1592~1596)の村高制施行に際して、戸数最多の「きし」村を中心に「岸田村」となり結束したようである。

近世の岸田村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は171石余。近世の岸田村の枝郷には、畑原、田中、青下の他、はがうろ・花口・横坂・菅原・肥前畑・白滑などの木地屋集落があったとされる。

明治22年(1889)八田村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数205、人口は男557・女528(青下、霧滝を含む)。

これまで把握している文化財

文化財の件数 22件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	3	0
		石造物	0		0
		工作物・その他の構造物	3		0
	美術工芸品	彫刻	4	6	0
		絵画	0		0
		工芸品	2		0
		書跡・典籍	0		0
		古文書・歴史資料・考古資料	0		0
無形文化財	音楽	0	1	0	
	演劇	0		0	
	工芸技術	0		0	
	その他の無形文化財	1		0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	3	0
		祭具	0		0
		民具	0		0
		その他の有形の民俗文化財	0		0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	4	8	1
		民俗技術	0		0
		食文化	1		0
記念物	遺跡	その他の無形の民俗文化財	0	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	0		0
		古墳・その他の墓	0		0
		城館跡・寺社跡	0		0
		街道・古道等	0		0
		戦争遺跡	0		0
	その他の遺跡	0	0		
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
		河川・瀧・渓谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
	動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	0	0	0
		動物	0		0
植物		0	0		
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	1	0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



三寶荒神社



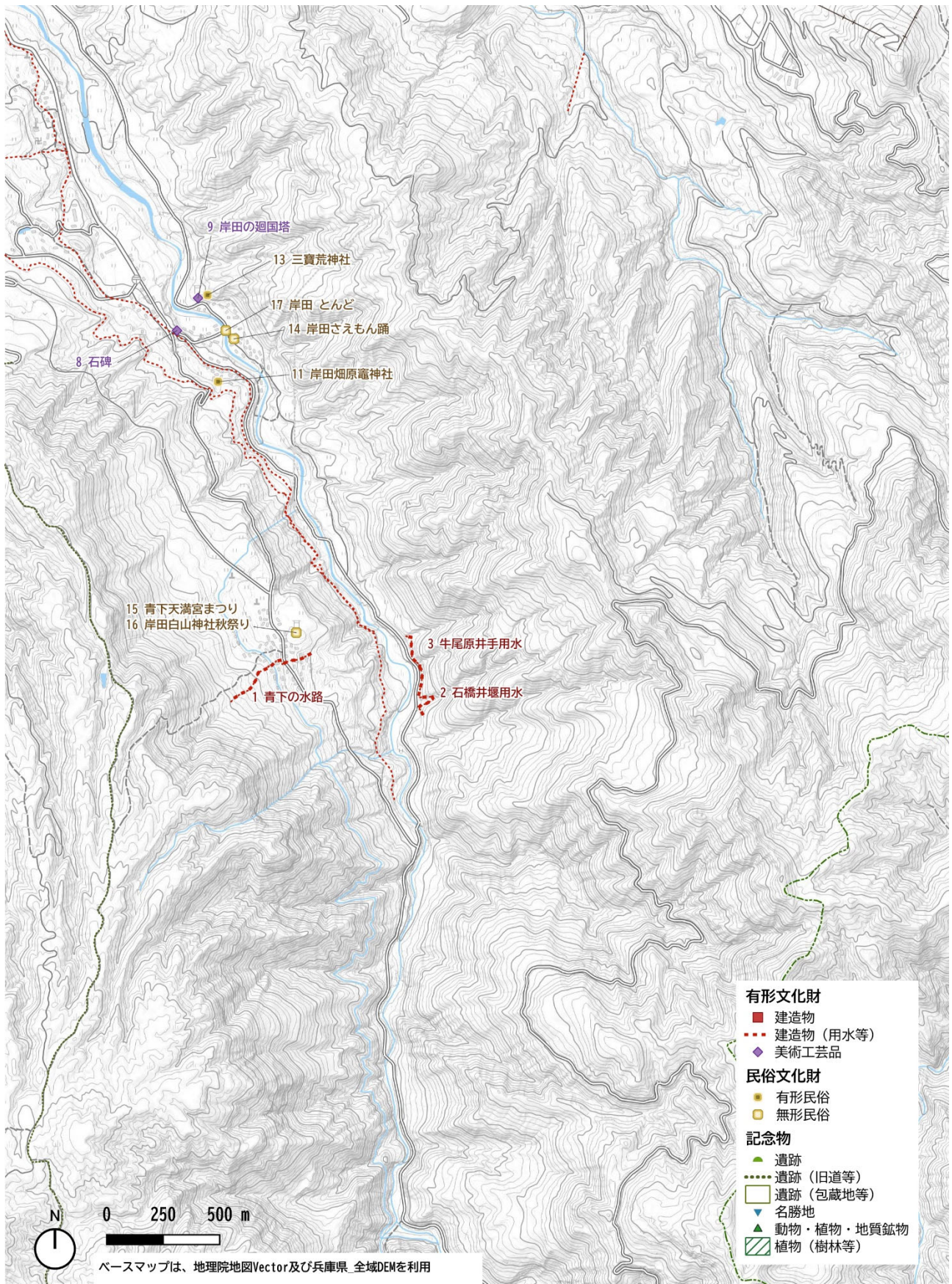
岸田の地藏さん



岸田さえもん踊

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6-12 岸田

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 構造物	1	青下の水路	標高約400mにある青下は、古くから開田が容易な平坦地に畑地が営まれ、岸田川本流から三倉谷川を高樋で渡し、谷々の水を集めて灌漑する延長約4kmの青下用水が築かれていた。しかし、水量が乏しく新田開発の妨げになっていた。明治元年(1868)、植村四良右衛門(基雄)が久美浜県に畑直り新田の許可をうけ、開田を推進した。開田は、明治元年(1868)冬より着工し、この新田開発に伴って、明治3年(1870)に青下の水路が完成した。その後、明治29年(1896)には三倉谷川引水工事が完成し、大正7年(1918)、この水路の急流を利用した小規模の発電施設「岸田川発電所」が作られ、大正9年(1920)より発電用水路に併用されている。また、明治32年(1899)には植村基雄顕彰碑が建立された。
	2	石橋井堰用水	近世初期に築造された水路。水路延長3,000m、灌漑面積50,000ha。取入口は岸田肘田3088。
	3	牛尾原井手用水	近世初期に築造された水路。水路延長600m、灌漑面積1.17ha。取入口は岸田ゴーロ803、排水口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	岸田の阿弥陀如来立像	像高105cm。堂守内厨子(格子)の中に祀られている。クスノキの一本造り。銘文に「寛政九年 御阿弥陀様再興 八月九日 セワニン」とあり、寛政9年(1797)8月の作。
	5	岸田の木像(1)	像高63.2cm。堂守内厨子(格子)の中に祀られている。阿弥陀如来の脇侍(右側)。銘文なし。
	6	岸田の木像(2)	像高63.2cm。堂守内厨子(格子)の中に祀られている。阿弥陀如来の脇侍(左側)。銘文なし。
	7	岸田の地藏さん	95×35cmの木像。虫食いも多く、塗りの落ちがひどい。左手首も落ちてい
工芸品	8	石碑(不明)	概要不明
	9	岸田の廻国塔	126×70cmの石碑。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
その他の 無形文化財	10	畑ヶ平大根の栽培	新温泉町の大根畑は、標高950~1,100mの場所にある。1年のうちの5ヵ月ほどは雪で土が隠されている。そのため、真夏でも最高気温が27度ほどまでしかあがらず、その冷涼な気候を利用して「畑ヶ平大根」を栽培している。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	11	岸田畑原竈神社	近代社格は無格社。
	12	岸田岡竈神社	近代社格は無格社。
	13	三寶荒神社	元々岸田地区と田中地区の氏神は田中地区にある「岸田神社」だったが、近年、岸田地区は田中地区と分かれ、この三寶荒神が氏神になった。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	14	岸田さえもん踊	鎌倉時代に遊行上人といわれた一遍上人が山陰を巡回した時に「さいもん」と名付け、念仏踊りをして普及したと伝えられる。約600年の歴史をもつ踊りでさし手の中に献物の形を残し優雅さの中に舞いの要素を加えて流麗典雅なもの。毎年の盆には、他の踊りと共に地域に深く親しまれ、区民の心を慰め、生活に潤いを与える。「熊谷直実」、「伊勢音頭」、「俊徳丸」、「藤吉出世」など多くの芸題をもつ。「さえもん踊」は伝統の古き優雅さにおいては、白眉的存在として定評があり、また反面では修得がむずかしいとされている。 町指定文化財
	13	青下天満宮まつり	5月第4日曜日に行われる。
	16	岸田白山神社秋祭り	9月18・19日に行われる。
	17	岸田 とんど	1月7日に行われる。
食文化	18	じゃぶ	鶏肉、糸こんにゃく、ごぼう、にんじん、玉ねぎ、豆腐などを鍋で煮た郷土料理。秋祭りに食べる。
民間説話・ 俗信	19	きつねの嫁入り	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p106参照
	20	ヨタロウのおつかい	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p128参照
	21	しりほっとめ	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p166参照

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・ 風土により 形成された 景観地	22	岸田の棚田	山裾の緩傾斜地を利用した棚田が広がる。